

みずくらんど 16

福生市史研究

1994 花春



福生市

新嘗祭御供米耕作

明治40年、郡役所より御供米耕作を石川彌八郎(59)が指命され、安政6年に流失した水田を明治期に開墾した時の世話人の内、生存者4人を助手に鎮守の付属田で耕作する。ところが8月25日の大水で多摩川の堤防が決壊し、水害が全耕地におよんだため御供米献納解除願を出す。しかし御供米耕作地が耕地中の最高地であったため幸いに成熟する。これを記念して11月5日に収納、同23日鎮守に供えた。写真は6枚組の貴重な資料で、これは収納の風景。耕作助手の4人は野島惣助(77)、内出三郎左衛門(87)、石川勘次郎(87)、斉藤金五郎(89)で、神主は野口重納(67)であった。

(写真提供 斉藤眞一氏)